

都心からいちばん近い棚田

寺坂棚田

Terasaka-tanada

てらさかたなだ



いつまでも
美しい風景



棚田を守って
30年

町田 修一さん
(寺坂棚田保存会会長)

私が生まれ育った地域は昔から、四季折々の素晴らしい棚田の風景が広がる里山でした。ところが、農業従事者の高齢化や後継者不足などで次第に耕作放棄地が多くなり、棚田は荒れていきました。その風景に心を痛めた地元農家たちが、昔の美しい棚田を復活させ、日本の原風景を後世に伝えたいと立ち上がったのが今から14

年前のこと。取り組みは少しずつ広がり、平成24年には4つの団体が統合し、米作りを通じて、自然の大切さや先人の知恵、貴重な文化遺産でもある棚田の風景を今に伝えていきます。日本の原風景である棚田文化は、これからも私たちが守るべき大切な宝です。



里に生きる先人の知恵

子どもたちへ 未来へ
後世へ伝えるふる里の心

棚田に滲えられた水が映し出す清々しい春の空、ホタルが舞い踊る夏、そして稲穂が黄金色に輝く秋。武甲山の麓、約5・2ヘクタールの斜面に、250枚の大小さまざまな棚田が並び、一枚の美しい絵のような景観を見せる

「寺坂棚田」。寺坂棚田は縄文時代に造られたとされ、現在は埼玉県内で最大規模となっています。

一時期は後継者不足などから荒廃したものの、寺坂棚田保存会が中心となって棚田の再生と保存に尽力。今では、見事に往時の景観を復活させました。

また、棚田を拠点に、地権者と寺坂棚田学校、寺坂棚田オーナー会、寺坂ふれあい農園の4団体が連携して様々な活動を展開。地域一丸となった里山の保全活動へと発展しています。例えば、地元農家の指導でお米づくりを学んだり、県内をはじめ、東京都や神

奈川県など首都圏の人がオーナーとなる「寺坂棚田オーナー制度」では、田植えから稲刈り、収穫祭まですべての米作りの作業を行っています。

さらに、毎年7月上旬には一夜限りのイベント「ホタルかがり火まつり」を開催し、約600個のかがり火とホタルで幻想的な棚田を演出。9月下旬に開かれる「彼岸花まつり」では、黄金色に輝く稲穂と真っ赤に染まる彼岸花の美しい競演が楽しめます。

子どもたちへ。未来へ。

愛する棚田へウェルカム



Terasaka-tanada
terraced rice paddies

Terraced rice paddies means the paddy fields which are constructed in a stepped pattern on the steep slopes. It came to be referred to as terraced rice paddies because the scene in which many layers of terraced rice paddies overlap each other resemble a terrace. Terraced rice paddies are now disappearing because each terrace has a small area, it takes hard labor to maintain due to the location on the slope, society is aging and the population is declining. On the other hand, the requirement to preserve the fields as precious traditional scenery for the Japanese is gathering momentum. Terasaka terrace paddies with a superb view from which people can enjoy seeing the great form of Mt. Buko are a valuable Yokoze-town asset inherited from the ancient Jomon Period.

寺坂棚田保存会



寺坂棚田保存会は棚田の景観保全と農業振興を目的に平成24年に設立し、棚田の再生と保存に努めています。棚田を含めた素晴らしい自然豊かな里山の環境を地域全体で守っていくために、都市と交流するなど多様な取り組みを展開。他団体と協力しながら豊かで潤いある地域社会づくりに取り組んでいます。



また、保存会だけでなく、地元農家の指導のもと、年間を通してお米作りを学ぶ「寺坂棚田学校」、田植えから稲刈り、脱穀、収穫祭まで一連のお米づくりの作業を行うオーナー制度を実施している「寺坂棚田オーナー会」なども保存会の活動と連携しながら、寺坂棚田の再生・保存に大きく貢献しています。

寺坂棚田 四季折々の表情をみせる横瀬の宝



棚田とは、傾斜地に階段状に造られた水田のこと。畦が幾重にも連なる形が棚に似ていることから、棚田と呼ばれるようになったそうです。棚田は一枚一枚の面積が狭い上、傾斜地にあるため維持管理に労力がかかり、過疎化や高齢化に伴って、その姿を消しつつあります。一方で、日本人にとって大切な原風景として保存の機運も高まっています。寺坂棚田は秩父盆地の東部、横瀬川と、その支流である曾沢川との合流点に位置します。下段と上段の標高差は約40メートルあり、東西400メートル、南北250メートルの広さを誇ります。棚田の南面には「寺坂遺跡」と呼ばれる縄文遺跡があり、縄文時代から人々が居住していた所でもあります。正面に武甲山の勇壮な姿を仰ぐことができる眺望抜群の寺坂棚田は縄文時代から連綿と伝われて来た、横瀬町の大切な遺産です。

住みやすいケロ

